

基本手技・医療面接実習

【単位数:0.5単位, 授業22.5コマ】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

科目担当者

森下 啓明 准教授(シミュレーションセンター)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅱ-1-b, Ⅳ-1-b, Ⅳ-2-b, Ⅳ-3-b, Ⅳ-4-b, Ⅳ-5-b, Ⅳ-6-b, Ⅳ-7-b, Ⅳ-8-b)

- ① 本学のコンピテンシーである「診療技能」を学び, 診療参加型臨床実習の基礎となる医療面接, 身体診察, 基本的臨床手技を身につける。
- ② 基本的臨床手技の目的, 適応, 禁忌, 合併症について理解できるようにする。

(2) 学修目標

- ① 患者の立場を尊重し, 診察時の信頼関係を構築することができる。
- ② 患者の安全を重視し, 有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。
- ③ 患者のプライバシー, 羞恥心, 苦痛に配慮し, 個人情報等を守秘できる。
- ④ 手指消毒, 器具の消毒など感染予防行動をとることができる。
- ⑤ 挨拶, みだしなみ, 言葉使い等, 医師としてふさわしい態度をとることができる。
- ⑥ 的確な診断に必要な診察方法(体位, 技法)を選択し, 実施できる。
- ⑦ 医療面接実習, 全身状態とバイタルサイン, 頭頸部診察, 胸部診察, 腹部診察, 神経診察, 四肢と脊柱の診察, 救命処置, 基本的臨床手技の必須項目を実施することができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
態度	○	—	実習態度が不良の場合は不可とする。
その他	○	—	学修した診療技能については技能評価をその都度実施する。

出席: 実習を修得するためには, 欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

すべての評価対象において, 不可がないこと(可否の2段階で判定)。

(3) 再試験・再評価の方法

課題・レポートを課す。

実習を欠席した場合は, 補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

実習中に適宜行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学習・評価項目(PDFで配付する)	(社)医療系大学間共用試験実施評価機構		OSCEの評価対象項目の必修・非必修が示されている。
診療参加型臨床実習に必要な技能と態度教育・学習用動画(視聴可能となったら通知する)	(社)医療系大学間共用試験実施評価機構		画像でOSCEに必要な手技を解説している。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
ProCedures CONSULT (https://www.proCeduresConsult.jp/)		Elsevier Japan	画像で様々な手技を解説している。

6 準備学習（予習・復習）

各領域の実習前日までに、該当する動画のパートを視聴し、大まかな手技の流れを把握しておく(0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

小グループに分かれてシミュレーターを用いて繰り返し学修する。又は二人一組となり、交代で被験者となり、診療技能を身につける。

(2) 講義の内容

基本手技の領域毎に、手技の解説を行い、その後小グループでお互いに施行する。